



国労せんだい

No. 2655
2013年7月5日
発行責任者 大沼 元
編集責任者 武田 昌仙

労働条件改善急げ

エルダー職場 厳しい労働環境

地方本部は5月26日、仙台市内花京院スクエアにおいて、「エルダー組合員交流会」を開催した。
この取り組みは、08年から実施された「エルダー社員制度」において、労働条件や配属などについて多くの問題が発生していることから、実際に各職場で働いている組合員との意見交換を行い、問題点の集約とその解消を図るため開催している。

集会には総勢24人（エルダー組合員10人）が参加し五十嵐書記長の司会で開会。大沼委員長のあいさつ後、東日本本部武田組織部長が労働条件改善に向けてこの間、東日本本部が取り組んできた内容を今後のスケジュールを報告。

（①職場アンケートを基にした要求案作成②国労要求実現署名③第27回定期大会で労働協約改訂要求④要求提出・団交開催）

またグループ会社における国労運動の展開・強化として、この間乗務員以外全ての職種で委託・外注化がされているが、グループ会社における労働条件に関する協約の締結を目指しており、その突破口はJR東日本ステーションサービスであると述べた。
続いて地本千葉組織部長

クからも中々人が来ない。昨年9月3人来るという話があった。日給6千円、23日働いて13万8千円、手取り10万少々では一人の生活で精一杯。30代の人出勤してこなかった。40代の人

は奥さんと子供二人、4ヶ月頑張ったが辞めた。ハローワークから紹介されてきたのを不思議に思っていたら今回だけ日給を6千5百円に上げていた事が発覚。今まで働いていた人達も不満から会社文句を言うように。自分も相談など受けている。労組加入は難しいが賃上げに労組は必要なものという取組みをすべき。

▼出向先の格差。休日年間94日。他職場とは5年間で3ヶ月も休日が少なく同一賃金。公平公正でない。

ロジスティクス 出向先に組合を

▼JR貨物に出向し4年目。労使間協議の約束を反故にされ改善もなくあと1年で退職。労組として事業が発生してからでなく、事前に調査、掌握し対処すべき。

6・12 第10回地本執行委員会
第2回選挙管理委員会
6・15 地本組織対策会議
6・21 貨物夏季手当満額回答を勝ち取る集会

の誤った情報を記載している。鵜呑みにせずチェックすべき。

▼私見。軍手など要求すれば支給するようになった。しかし抜本的な内容は社長に言っても変わらない。出向先に組合を作ること

が考慮を。現在組立分会だが、ロジに組合を立上げ、そこにも加盟出来ないか。

支社を通じてでは坪があるかない。JR東は「東北ロジはJR東のグループ会社ではなく、関係会社」の認識。

労働条件の改善には関係ない立場。しかし出向には出す。どうなのか。

▼原発。東北電力の値上げ。公聴会を傍聴。反対の意見は「被災地まで同じく扱うのはおかしい」

「原発再稼働の原資を料金に含むのはおかしい」が主。地本として料金値上げ反対署名の取組みを提案する。

東北総合サービス

★早急に窓口作りを

▼東照宮駅。泊まり勤務。乗降客一日5千人。仙山線はよく遅れるため乗客との対応が大変。委託業務であり本来業務と同様の業務。出向社員とエルダー、他駅ではプロパー社員もいるが、同じ業務で賃金格差。

▼諸問題があっても総合サービスとの窓口なし。様々な

問題がすぐには解決しない。ブロック長の巡回時に話を

する程度。何らかの形で交渉の場がもてるようにしていく必要がある。あと2年8ヶ月。穴を開けていかなければ、地本の対応強化を。

▼榴ヶ岡駅。委託駅は山形・福島・宮城50駅で総勢227人。バス代行含めると71職場。賃金は15万5千〜18万6千円。自分は時給8百円の単価。月10回泊まりで全くJRと同じ業務。違うのは制服だけ。

▼プロパー社員が入社。就業規則もJRに準じているが、将来展望なく、低賃金のまま据え置かれるため若者が働き続けられない職場。

▼4月1日、JR東日本ステーションサービスが発足、東京・横浜・八王子・大宮で百駅、一部委託25駅を加えると125駅で1万2千人。東北にもエリア拡大の波及が危惧されている。

▼新たな委託駅拡大の提案が予測。だが委託拡大はサービスの低下、客とのトラブルを招いている。

▼窓口業務以外の防犯・管理業務も。防災・火災・地震対策や車両火災時の排煙装置扱い等、本当に業務委託駅の業務なのか？

▼休みたくても休めない。年休を我慢。一人の年休を取得するために2徹をするなど体を酷使。ブロック長に主張するが、その先の進

6・22 第35回安プロ・第26回各支部委員長合同会議
第5回婦人部常任委員会
6・27 団交（設備関係事務職集約支社提案）
7・2 貨物会社夏季手当低額回答に抗議する集会

展なし。早急な直接交渉出来る窓口作りを求める。

テクノサービス

慣れない業務で苦勞

▼2月から新幹線の清掃業務。5月のエルダー社員研修では、「◆テクノは100%JRの子会社◆休日1日増のためには7百万円の出費、昨年の諸経費を除いた利益は一千万円◆阿武隈急行との契約は来年は無し◆エルダー社員に対するテクノの負担金は一人22万円」とコストの話。

▼今年、テクノで構内限定運転士を募集。将来の業務拡大を睨んでか。

▼社員の位置付けは、社員、準社員、パートA・B（AとBの違いは年収103万上限の括り）とエルダー社員。準社員とパートは月給月給、社員とエルダーは月給制。

▼交番検査の時間短縮のしわ寄せが清掃にも及ぶ。JRの作業に影響が出ないよう苦勞している。

▼業務開始から1ヶ月後、朝手が痺れて開かなくなつた。ハンドクリーナーの重量による腱鞘炎の診断。職業病として労災認定など出来る職場に変えたい。

▼エルダー延長の際、年休がない状態。3ヶ月で発生するが、検討事項でないか。

▼組合費。エルダー延長の際は低額に。

▼新幹線のメンテナンス。小出庫で電車部品交換。部品のある場所がわからず当初3ヶ月は悩んだ。

▼Jテック社員は昨年、今年と8人程採用。高卒者は正社員だが、中途採用者は3ヶ月間試用期間で時給750円、その後準社員になり、昇進試験制度があり合格すると正社員。

▼組合はあるが機能していない様子。30代で子供3人、ボーナス5万。どうやって暮らすのか。社員でも昇給は千円、1万あがるのに10年・・・。ただ超勤はしつかりつけている。

仙建工業

要員不足解消を

▼仙建郡山で2年経過。JRからの出向者が5人、エルダー出向が2人、仙建社員が12人、契約社員2人、出向の軌工監が4人の体制。エルダー契約時は工事関係だけと告げられたが、実際は検修も。

▼若手のプロパーが育成され資格も取得し業務を担ってきているが運転・傷害事故も多い。

▼仙建の幹部社員は元JR社員が天下り。末端社員は不満を漏らす。
▼作業中、汽笛吹鳴で事情

聴取。輸送指令との運転確認通りに作業したにも関わらずの事故。

▼検査測定値の扱いについて、異常な値が出た場合の対処など諸問題がある。

▼若手も含めて根本的な安全問題を議論していかねれば。

▼新幹線郡山出張所で検修業務担当。今年1月まで5人体制で行っていたがエルダー社員が退職し4人体制に。7回〜8回の夜勤が9回になり非番の日にもまた夜勤もあり厳しい。所長に補充の要請をするとJRから来てくれる人誰かいないかと逆に聞かれる。所長同士で話をするのもないという。仙建の本社支店には話しているが人事であり希望者がいないと難しいという話。

▼現場で業務用車を増やしてももらいたいという要望があり、所長も「上に言う」となったが、一方で在来線Gは台数も足りており、全車ETC完備。現場長の違いで我々の労働条件が違ってくるのは困る。

▼利府の新幹線職場を希望したが、郡山に配属になりあと1年11ヶ月遠距離通勤

だ。辞めたいが食っていけないため勤めている。工事テーブルのため、中々組合員と会えない。

▼青森新幹線開業で冬季間確認車業務で二週間程出張で連夜があった。郡山では仙台通勤を考慮され連夜作業はないが通勤で疲れる。

東北鉄道運輸

調整しないと休めない

▼東北鉄道運輸新幹線営業所。メーカーから新幹線の部品を購入し、JRに納める業務。4人体制。所長がエルダー退職であったが、後任がおらず、特別契約社員として残っている。希望者はいないが適任者がいないということらしい。

▼東北鉄道運輸は63歳で定年退職。希望すればシニア社員として1年更新で2年残れる。

▼昨年、パートが契約社員、契約社員が準社員、準社員が社員にランクアップ。自分の箇所は手当もなく低賃金。若い人は手当のつく他職場を希望。フォークリフト作業で手当がつくが、エ

理不尽な賃金抑制論と手当減額に対する怒りを露わにした。

同日は、郡山分連協においてでも同集会在開催され、35人の仲間が結集。東北貨物協議会大越議長が経過・情勢報告を行ない、福島県支部と郡工支部、各分会代表者から激励のあいさつがあった。また福島県支部小松山委員長からは福島貨物分会と郡工貨物分会に組合員の寄せ書きが手渡された。

生活できる手当を支給しろ！

超低額回答に抗議

仙台・郡山で夏季手当超低額回答に抗議し再回答を求める集会を開催！

地方本部はJR貨物会社の夏季手当の支払いで、基準内賃金の1・1ヶ月分（7月10日支払い）の超低額回答に抗議し、再回答を求める緊急抗議集会を7月2日に開催することを指示、各地で集会を開催した。

賃金減額は許さない！ストライキで闘おう！

宮城県集会には宮城県支部と仙総支部の仲間約80人がかけつけた。集会において東北貨物協議会木元事務局長は、「過去最低の考えられない回答。支給額が少なく24控除に支障する仲間、若手からは自

動車ローンの支払いや車検が受けられない、また転職を考えなくては等

の声がある」 「3月に管理職社員と新規採用者に対し賃金抑制を通知したが、組合には一切提案のない労基法抵触の行為。貨物は3年連続黒字計上であり賃金抑制は常識外」 「東貨協はこの夏季手当の闘いが賃金抑制を含め最重要である」と意思統一、他労組へも矛盾点を伝え共に闘い賃金抑制撤廃を呼びかけている」 「会社は賃金減額による黒字拡大が夢のある働きがいのある会社になると主張するが、賃金減額を許せば消費税と同じく収益が上がるらない時は減額される仕組みだ」 「厳しい状況であるが、東貨協は闘いの中から情勢を切り開きたい。本部ヘストの要請を行い、また全貨協は本部ヘストの要請を行なった」と報告し、会社の



福島貨物熊田分会長へ檄紙が贈られた

ルダーは除かれる。

▼休暇が取りづらい。調整して休んでいる。

▼国労がいなかった職場。前任者が急逝したため採用されたようだ。

東北工機整備

事故起つせは針の筵

▼守衛と所内運搬業務が主と言われているが、現在は中央倉庫の電車部品の受け払い、管理と各区所の修理部品受けや配送等。

▼休日はほぼ入るが二人一緒に休めない。相手と調整している。

▼業務の性格上、フォークリフト事故が多発。その都度発表され、事故を起こすと針の筵。

宮城県支部 山田書記長

▼エルダー社員交流会を4回実施。要求を取りまとめた。地本で各社に訪問実施するようなので、支部も同行したい。

▼組合員がエルダー社員として配属先に行く際は分会など機関役員が同行すること。

訂正

国労せんだい2650号（選挙公報2号・6月13日付）は2651号に訂正します。



とも必要では。

▼労基法・労働安全衛生法の違反はないか調査が必要。以前の点検摘発手帳の作成・配布を要請する。

▼駅ではEV10券売機の導入が検討されており、委託化が更に進む。各会社との窓口作成が急務。

▼国労はエルダー社員のみならず、出向先会社の社員の労働条件を考えているということを示す必要がある。

▼7月にエルダー嘱託組合員激励交流会を企画している。

福島県支部 堀口副委員長

▼エルダー社員に対する取り組みは中々進捗がない。現状はエルダー社員が孤立状態にあり連絡も十分でない。

▼しかし組合員から話を聞き状況を掴むためには足を運び点検をしなければならぬ。今後スムーズに行うためにもこうした交流会も実施していきたい。

仙総支部 渡辺執行委員

▼エルダー担当を各分会に配置。職場実態を掌握するようにとめてきた。危険な実態があれば報告をもらい、安全靴や保護具など準備させるなど改善をしてきた。

▼各職場毎に要求を集約し、地本に上申しているので交渉を要請する。また協会の

仲間の異動

6月14日付
出向

○石山 昭夫さん
山形運輸区

←
ジェイアール
テクノサービス（山形）

退職のお知らせ

5月31日付

押切 忠さん
郡山駅連合

長い間お疲れ様でした

社に足を運ぶことがあれば、支部・分会も同行したい。

▼昨年8月、エルダー社員交流会を実施。激励会ではなく、職場実態を把握するための交流。今年も実施し労働条件と制度改善のため頑張りたいので地本も協力を。

まとめ 五十嵐書記長

▼ロジスティックスの状況が続いているのは認識している。業務部長に伝えていく。

▼会社には改善を粘り強く求めていくしかない。

▼手紙での確認。福祉問題学習会でも返答が5割。震災後、住所も2割違がある。機関をしつかり動かし調査していく。